令和5年国語科評価規準　第2学年

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第１学年及び第２学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4	ー	二年生で　学ぶ　こと					
4	6 （書く 4）	ことばと　であおう	□■詩を体を動かしながら声に出して読んだり，日記を書いたりすることを楽しみ，国語学習への意欲をもつ。				
4	2	ちいさい　おおきい	□体を動かしたり，声の大きさを工夫しながら，楽しく読む。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1 2	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 １．詩を読んで，気づいたことを発表する。 ２．生活班などの4人程度のグループで音読・表現の仕方を話し合い，発表会を開く。	○教師が生き生きと音読して見せることで，児童の緊張感を解くことができる。声の大きさや動きの工夫の例を示せるとよい。 ○個人のアイデアをグループの中で持ち寄ることで，活発な雰囲気が生まれる。さまざまな動きをつけているグループを認め，停滞しているグループに例を示せるとよい。 ○詩の中に登場する生き物のセリフを考えさせることも効果的だろう。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて，学習の見通しをもって音読しようとしている。
		（どんな　よみかたを　するか　かんがえて，こえに出して　たのしもう。）					
4	4 （書く 4）	つづけて　みよう　ー日記ー	■毎日の生活を振り返り，日記を書く。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)イ ☆生活科：観察日記を書く活動に生かすことができる。	3 4・5 6	○P12・13を読み，日記がどのようなものか，日記には何を書けばいいのかを知り，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** ３．生活を振り返り，日記に書く材料を集める。 （1）「日記のたね」をもとに，書いてみたい事柄を集める。 （2）付箋を表に整理し，書きたいことを選ぶ。 **書こう** ４．日記を書く。 ○学習を振り返る。	○基本的には，毎日の生活を振り返って書くものだということをおさえる。実際には，その日のことにこだわらず書かせたり，幾つかの話題から選択させて書かせたりしてもよい。帯単元のようにして扱い，題材を探す力を育てたり，書くことの日常化を図ったりすることもできる。 ○この教材で始めた日記は，下巻の第七単元『こんなことができるようになったよ』で活用できるように設定されている。一年間書き続けた自分の日記をもとに，書くことの題材を選ぶ楽しさを味わわせたい。 ○続けていくためには，児童にも教師にも負担にならないよう時期や返却の仕方など，それぞれのクラスでやりやすい方法を考えていくようにしたい。 ○見たこと・聞いたこと・したこと・感じたこと，などと視点を決め，書く材料を集めるとよい。 ○一緒に遊んだ友達どうしでペアになる，などのグループ学習も効果的だろう。 ○その日の生活でしたこと，思ったことを集める。児童によって毎日書くことが負担となる場合は，一週間の中で書きたいことがあった日に書くようにしてもよいこととする。 ○日記例を参考にして，日付・曜日・天気なども書き入れさせる。 （発展） ・毎日取り組む。 ・期間を限定したり，定期的に取り組んだりする。 ・グループで日記ノートを回す。 ○家の人に読んでもらってもよい。そして，励ましなどの一言を書いてもらうとよい。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に経験したことから書くことを見付け，学習の見通しをもって日記を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4	3 (話す聞く3)	声の　ものさしを　つかおう	◇いろいろな場面で，話す声の大きさを考えて，気をつけて話すことの大切さに気づく。 △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア	1	○いろいろな場面に合わせた声の大きさで話すことを理解し，学習のねらいと流れをつかむ。 １．挿絵と照らし合わせながら教材文を読み，学習の大体をつかむ。 ２．P14の「みんなにしらせるとき」「ほけんしつで」「うんどうかいで」の場面について，それぞれ，P15 の「声のものさし」のどこにあたるか考え，実際に話しながら，「ものさし」の数値と実際の声の大きさを実感的に捉える。	○場面や相手の数に合わせた声の大きさで話すことの必要性に気づかせ，上手にたくさん話をしていくよう意識づける。日常生活の場も意識させる。 ○全文を挿絵と照応させながら読み，日常生活で意識しているか経験等を想起させ，「ものさし」を学習し直す意欲をもたせる。 ○学校生活の中の「みんなにしらせるとき」「ほけんしつ」「うんどうかい」の経験を思い起こさせ，そのときの声の大きさに背景や理由があることを考えさせるようにする。 ○相手の人数に合わせた大きさで話すときの声について，話すグループと観察するグループに分けて，話し手どうしの感覚や，聞いた時の感覚を実感的に比べさせるとよい。	◎【知識・技能】音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】積極的に声の大きさや速さなどを工夫し，学習の見通しをもって話そうとしている。
				2	３．「声のものさし」に合わせて声を出す。 ・「ものさし」の「0 の声」「4 の声」を教室や校庭で実際に試したり，『ちいさい　おおきい』をいろいろな「ものさし」で読んだりして，実感的に確かめる。 ４．P15の場面の声の大きさやその理由を話し合い，生活のほかの場面を想定し合って，「声のものさし」をいつも心の中にもっているよう意識する。	○五段階の声の大きさ（「0」を含む）のうち，「0」の声は，例えば教室移動のとき，「4」の声は，体育館などで音読したり発表したりするときなど，空間の広さや周りの状況でも変わること，変えることを意識させ，P8-10 の詩の音読を，いろいろな声で楽しませたい。 ○生活場面でのいろいろな機会を，P15 をもとに考えさせる。理由を添えて考えが話せるようにしたい。	
				3	５．P16「書くとおなじでも、よむとちがうことば」を読み，アクセントの違う言葉を集め，文を作って比べ合う。 ○学習を振り返る。	○同音の言葉でも，意味の違いでアクセントが異なる言葉があることに気づかせ，たくさん集めたり，文にして比べ合ったりさせる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
4～5	13 （話す聞く3）	一　とうじょう人物の　した　ことに　気を　つけて読もう	□登場人物の様子を思い浮かべながら読み，くまの子になったつもりで音読する。				
		「えいっ」	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｂ感謝　家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	1・2 3～5 6～10 11 12・13	○単元とびらを読んで学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．くまのとうさんが「えいっ。」と言ったあとに起こることで，くまの子が驚いていることを確認する。 （1）くまのとうさんは，何回「えいっ。」と言ったのか。 （2）くまのとうさんの「えいっ。」で起きたことは **考えよう** ２．登場人物の様子を想像する。 （1）くまのとうさんが言った最初の「えいっ。」と最後の「えいっ。」で違っていることはあるか確認する。 （2）くまの子は，電車に乗って黙っていた時，どんなことを考えていたと思うか。 場面ごとに順番に，くまのとうさんの行動とくまの子の気持ちをノートに整理する。 **深めよう** ３．くまのとうさんが「なるほど。」と言ったのはなぜだと思うか，友達と話し合う。 **広げよう** ４．このお話のおもしろいところを紹介し合う。 ○単元の学習を振り返る。	○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○簡単な感想の交流やおもしろかったところの交流をして，くまの子になって考えてみることへの興味・関心をもたせる。 ○新出漢字の確認と練習をする。 ○（1）と（2）は別々に学習するのではなく，まとめて学習し，表にまとめるとよい。 ○話の順序を，挿絵を手がかりにしておさえる。 ○とうさんの行動と，くまの子の気持ちとを順番に対照させて表にまとめながら確認する。表にまとめる前に，教科書の該当箇所にサイドラインを引かせてから確認するとよい。 ○ノートにまとめる際に，記述事項を整理する指導も行う。 ○文章に書いてある表現をもとにして，その時，くまのとうさんやくまの子は何を見ていたのか，どんなことを考えていたかを想像させる。 ○「なるほど。」に含まれたとうさんの思いを想像し，友達と考えを共有する。 案① ○どんなところがおもしろいのか，どうしておもしろいのか、ノートに書く。 ○友達とおもしろいと感じたところを紹介し合い，このお話のおもしろさや魅力は，さまざまであることに気づかせる。 または案② ○どの場面が好きなのか，どうしてそう思ったのか，考えをノートにまとめる。 ○好きな場面を選んだ人どうしで集まり，その場面のよさを伝え合い，その場面のよさを改めて考える。 ○好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み，思ったことを交流する。 ○改めて好きな場面を考え，ワークシートや画用紙にまとめる。このお話の魅力は，さまざまであることにも気づかせる。 ○Ｐ32・33を見ながら，言葉の使い方や，「登場人物」とは何かを再確認する。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉え，学習の見通しをもっておもしろいところを紹介しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	2 （話す聞く2）	ひろい　公園	◇質問を落とさないように聞き，絵から答えを探す。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1 2	○教材名とリード文を読み，公園の絵を見ながら質問を聞くという学習の見通しをもつ。 **話そう・聞こう（重点）** １．質問を聞いて，絵から探す。 （1）教科書に描かれた，広い公園で子どもたちが遊ぶ絵を見ながら，質問を聞く。 （2）質問の内容を確かめ，答えを話し合う。 （3）絵を見て同じような質問を作り，きき合って答えを考える。 ２．伝言ゲームをする。 （1）絵の中の様子を言葉にして話したり聞いたりする。 （2）考えた文を使って，伝言ゲームをする。 ○学習を振り返る。	 ○質問のどの言葉を手がかりにするかを確認する。 ○答えが一つだけの質問と答えが幾つもある質問とがあることをおさえる。 ○大事なことはなんだったのか，確かめるために声に出して確認し合うとよい。その際，実態に応じて「男の子の帽子の色を確かめ合ってみましょう」「滑り台の近くにある遊具はなんだったのかを確かめ合ってみましょう」などと，短い言葉で確認できるように具体的な視点を与えることも大切である。 ○絵からわかることを，人物・服装・動き・関係等の観点から文にするようにする。 ○伝言ゲームの方法を知らせ，教師がはじめに言葉にして行う。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 （〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】積極的に自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，学習課題に沿って質問に答えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	2	**漢字の　ひろば　①** 画と　書きじゅん	△漢字の画と筆順について理解し，正しく書く。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「土」「日」の字は，それぞれ何画で書くのかを考える。 ２．漢字の画や画数の意味を知り，「山」「女」「糸」「右」「目」「馬」の画数と，それぞれの１画めがどこかを話し合う。 ３．これまでに学んだ漢字をもとに，画数についての問題を作り，互いに答え合う。	○画・画数・書き順（筆順）について理解するという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○「土」「日」を例に，「画」および「画数」の名称とその意味について具体的に理解できるようにする。 ○板書では，一画めから三画めまでが見た目でわかるように色分けするとよい。 ○「山」「女」などをもとに，画数を正しく数えられるようにする。 ○巻末P156からの「1下までに学んだ漢字」の表から出題するとよい。 ○実態に応じて，空書きや指書きをしたり，直接ノートに書いて確かめるなどが考えられる。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に漢字の筆順を理解し，学習の見通しをもって正しい筆順で漢字を書こうとしている。
				2	４．「書きじゅんのきまり」をもとに，筆順の三つの原則について，考える。 ５．三つの原則とは異なる「とくべつな書きじゅん」があることも，理解する。 ６．点画の長短，接し方や交わり方などに注意して，筆順に従って正しく書く。	○筆順には，一定のきまりがあることを理解できるようにする。 ○筆順の原則についての知識を得ると同時に，画を組み立てられるようにすることが大切である。 ○この時期においては，正しく整えて書くことが意識できるように，点画の細部にまで注意を払って丁寧に書くよう促したい。	
	2 （書く2）	一年生で　学んだ　漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに，１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きした	3・4	７．絵の中の言葉として示されている漢字の読み方を確認し，一年生の時の一年間のできごとを振り返る。 ８．教科書の絵と言葉を参考に短文を作り，句読点の打ち方に気をつけて書く。 ○学習したことを振り返る。	○絵の中にある一年生の時に学んだ漢字の読み方を再確認する。 ○語と語を適切につなぎ，句読点の打ち方に気をつけて文を書くようにはたらきかける。主語のあと，従属節のあと，並列する語のあとなど必要な箇所に，適切に読点を打つことを理解させるようにする。 ○画と書き順について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き，学習の見通しをもって文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	13 （書く3）	二　じゅんじょに　気をつけて　読み，つながりを見つけよう	□ありとの関わりに気をつけながら，すみれが仲間を増やす仕組みについて説明した文章を読む。				
		すみれと　あり	△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめる。	1〜3	○単元とびらを読んで学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．書かれていることの大体を写真から確かめる。 （1）題名「すみれと　あり」や写真を見て，どんなことが書かれた文章なのか，話し合う。 （2）この文章を書いた人が不思議に思ったことは何か，P42から見つける。	○書かれている事柄の順序に気をつけて読み，すみれとありのつながりを説明するという学習の流れを確認させる。 ○すみれの花に限らず，花が咲いているところは，普通はどんなところか，経験を話し合うところから始めるとよい。 ○筆者も，まず，「道ばたに，すみれの花が咲いています」と述べていて，児童の経験と合致している。 ○しかし，次に「コンクリートのわれ目」「たかい石がきのすき間」にもすみれが咲いていることを指摘し，これが「どうして，こんなばしょに，さいているのでしょう」という問題提示につながっている。「どのような共通点があるかな？」などと投げかけるとよ	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕（２）ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え，内容の大体を捉え，学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
				4〜7	考えよう ２．すみれの様子がどのように変わっていくのか，ありがどんなことをするのか，順序に気をつけて読み，表にまとめる。 （1）すみれの育つ順序にそって，表に書く。 （2）すみれの種をありが見つける所から，行動の順序にそって，表に書く。 （3）全体で交流し，表の中身を確かめる。	○「すみれの花→み→みの中のたね」と，説明する対象が移っていくことをおさえ，「主語―述語」を読んでいく。 ○順序を意識させるために，「まず」「次に」「そのあと」などの言葉を使って，文をつなげていくようにする。 ○主語の「あり」に着目し，「述語＝その行動」を追っていく。 ○「ここが大事」を参考にしながら，読み取ってい	
				8〜10	**深めよう** ３．なぜ，題名が「すみれと　あり」になっているのか，友達と話し合う。 （1）「ありとすみれ」ではない訳を考える。 （2）考えたことを友達と話し合う。		
				11〜13	**広げよう** ４．この文章を読んで，おもしろいな，不思議だなと思ったことを書く。 （1）自分の感じたことを，『「何が，どうする」ところがおもしろい（不思議だ）と思いました。』と，表す。 （2）書いたことを友達と発表し合う。 （3）「すみれ」と「あり」がどのようにつながっているのか，発表したことをもとに，更に知りたいと思ったことを図書資料等で詳しく調べる。 （4）図書資料等から，新たにおもしろいな，不思議だなと思ったことをノートに書く。 （5）書いた文章を，友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○話す際，ノートに文章中の大事な言葉を抜き出したり，文章中の大事な言葉に番号を書き込んだりして，順序よく話す工夫をさせるとよい。 ○「３」で読んだ「すみれの花の変化」と「ありの行動」が，「すみれの種」を介してつながっていることをおさえておく。 ○「すみれの種が飛び出す→その種をありが運び，捨てる→捨てられた種がその場所で花を咲かせる」という時系列に展開する情報を整理したうえで，「なぜ，種を飛ばすだけではだめなのか」「なぜ，ありはすみれの種を運ぶのか」「なぜ，すみれが花開くところがコンクリートの割れ目や石垣の隙間になるのか」を考えさせる。 ○順序を説明する文（時系列の情報を述べる文）とそれを補足説明する文（さまざまな「なぜ？」に答える文）を使い分けて，説明の文を書くようにする。 ○交流をする際、友達の書いたことを肯定的に認めることを伝えるとよいだろう。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
5	2	「言葉あそび」を　しよう	△平仮名四十七文字を全て使った歌や数字が歌詞に組み込まれた遊び歌があることを知り，音読する。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク △長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付くこと。　⇒◎知技(3)イ	1・2	○学習の見通しをもつ。 １．「いろは歌」が，平仮名四十七文字を一回ずつ使って作られていることを確かめ，声に出して五七五のリズムのよさを楽しみながら読む。 ２．数え歌を知り，遊びながら読んだり歌ったりする。 ３　家の人やお年寄りに遊び歌などを教わって集め，友達と紹介し合いながら遊ぶ。 ○学習を振り返る。	○「い」「ろ」「は」……と，一つずつ確認してみる。「ゐ」「ゑ」以外はかな表記通りの音でもかまわない。 ○教師の範読に合わせて声に出して読ませ，リズムをもっていることを確かめる。七音五音の組み合わせに気づかせる。 ○「いろは歌」には深遠な意味があり、意味に合わせた音読もあるが(「色は匂えど」のような)，二年生の段階で扱う必要はない。 ○暗誦したり遊びながら唱えたりするなどを楽しめる雰囲気作りに留意する。 ○Ｐ141「2年生で読みたい本①」の『かぞえうたの　ほん』を例に，言葉遊びの本を紹介したい。 ○お手玉の遊び歌(数え歌)を動作を入れて範読し，数え歌や遊び歌に興味をもたせるようにする。 ○家の人や身近な大人の人に聞いて，集めたり教わったりするよう促す。 ○集めた歌を友達と紹介し合う。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付こうとし，学習の見通しをもって音読しようとしている。
6	3	かたかなで　書く　言葉	△片仮名で書く言葉の種類を知り，正しく使い分ける。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し，日常化への見通しをもつ。 １．Ｐ52を読んで，片仮名で書く言葉の種類を知り，Ｐ53の上段の設問をもとに片仮名で書く言葉を種類ごとに仲間分けをし，片仮名で書く言葉の種類を理解し，他にもあるか話し合う。	○教材冒頭の会話文によって，日常の言語生活との関連を意識づける。 ○言葉の中には，片仮名で表記するものがあり，それらは幾つかの種類に分けることができることに気づかせる。 ○絵を見て片仮名の言葉を探し，仲間分けをする。 ○仲間分けを確認しながら，片仮名の濁音と半濁音，長音や拗音の読み方や書き方を教師が示しながら指導をする。また，似た字形やまちがえやすい字形も確認しておくようにする。	◎【知識・技能】片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】積極的に片仮名で書く語の種類を知ろうとし，今までの学習を生かして文を書こうとしている。
				2・3	２．Ｐ53下段の絵から，片仮名で書く言葉を使った文を 作り発表する。 ○学習したことを振り返る。	○自分で文を作らせ，片仮名で書く言葉を確認する。 ○絵で表現されているもの以外にも，関連してほかの言葉も示していくと，学習を広げていくことができる。 ○片仮名作文リレーなど，二人で組みとなり，交代で片仮名を含む文を一文ずつ考え記述するといった言葉遊びなどを行い，身近な使用例を見つけ片仮名に親しみをもたせる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6	8 （書く6）	三　本で　しらべて　しょうかいしよう	△■図書館で本を探す方法を知り，生き物について調べたことからクイズを作る。				
6	2	**図書館で　本を　さがそう**	△図書館に行き，自分が調べたり読んだりしたいテーマの本を探して，読む。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。　⇒◎知技(3)エ □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表C(1)オ □学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活動。　⇒思判表C(2)ウ	1	○図書館で本を探す方法を知り，本を探して読むという学習内容を捉え，学習の見通しをもつ。 １．図書館に行き，本を探す方法を知る。 （1）たくさんの本の中から，目的の本を見つけるための方法について話し合う。 （2）自分の学校の図書館の配架の仕方を確かめる。	○図書館へ行き，目的に応じて本を探す方法を身につけられるよう意識づけ，常に図書館を活用していこうとする意欲を喚起する。 ○本教材の学習を進めるにあたっては，図書館の環境整備が必要である。配架分類，書架の案内表示板の整備，図書館マップの作成などを行っておく。 ○本の探し方として，「司書の先生に聞く」「書架の案内表示を見る」「書名から探す」「図書館マップを見る」などの方法があることに気づかせる。 ○「すみれとあり」を読んだ経験をもとに，「あり」について書かれている本を探させるが，書名に「あり」となくても，「あり」について書かれている本がさまざまあることに気づかせる。 ○実際の書架や図書館マップを見せ，図書館では内容ごとに本が配架されていることにふれる。児童がよく利用する絵本，物語，自然科学の書架を中心に確認する。 ○絵本や物語の配架の仕方についても，図書館の実態に合わせてふれ，目的の本を探せるようにする。 ○本の探し方や配架の仕方について，実際に学校司書から話を聞く時間を設けてもよい。	◎【知識・技能】読書に親しみ，いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cウ） 【態度】積極的に読書に親しみ，学習の見通しをもって本の探し方を知ろうとしている。
				2	２．自分が調べたり，読んだりしたいテーマの本を探して，読む。 ○学習を振り返る。	○「魚」「植物」など，自分で読みたい本のテーマを決めてから，本を探させる。	
6	6 （書く6）	「生きものクイズ」を　作ろう	■生き物について知りたいことを調べ，クイズを作る。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。　⇒知技(3)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎B思判表(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒◎思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア ☆生活科など：題材は生活科で学んだ生き物から選ばせることもできる。	3・4	○学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう（重点）** ３．クイズにしたい生き物を決め，調べる。 （1）クイズにしたい生き物を決める。 （2）クイズにしたい生き物について，詳しく調べる。 （3）クイズにしたい内容をメモに書く。	○生き物の本を紹介したり，クイズの本を使って実際にクイズを楽しんでみたりして興味・関心がもてるようにしておく。図書資料については，図書館へ行って自分で探すことを想定している。 ○本棚の分類のほかにも，学校の図書館の実態に合わせて，配架（「おすすめ図書コーナー」「○○の学習コーナー」など），館内の掲示，題名や作者名などを手がかりに本を探させる。 ○目次から図書資料の大体が把握できることを確認する。索引を使って調べたい「生き物名」から必要なページを探せることも伝えておくとよい。 ○栞を用意し，クイズに出したい内容があるページに，はさんでおくとよい。 ○メモは，「何が」「どのように」をはっきりさせて，一文をできるだけ短く書くことを確認する。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bイ） 【態度】積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし，学習の見通しをもって「生きものクイズ」を作ろうとしている。
				5・6	**組み立てよう・書こう（重点）** ４・５．「生きものクイズ」を作る。 **読み返そう** ６．作ったクイズを読み返す。	○「○×クイズ」か「三択クイズ」を作ることを確認する。 ○「答え」は「正解は，～です」だけにして，「せつめい」を詳しく書くことで，楽しいクイズになることをおさえる。 ○問いと答えが対応しているかを確認させるようにする。	
				7・8	**伝え合おう** ７．「生きものクイズ」を出し合う。 ○学習を振り返る。	○解答する児童は「すごい札」を持ち，友達の「せつめい」を聞いて感心したら掲げる。 ○グループや全体，二人組などクイズの出し合い方を決めて，楽しむ。 ○めあてにそって学習を振り返る。 ・クイズのよさや特性について気づかせるようにする。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6	2	**漢字の　ひろば　②** なかまの　言葉と　漢字	△意味をもとに仲間に分けた漢字について理解する。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1 2	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「家族を表す言葉」について考える。 ２．「時を表す言葉」について話し合う。 ３．意味をもとに漢字を仲間に分けることについて理解し，それぞれの漢字を関連づけて覚える。 ４．意味のつながりのある言葉や漢字を身のまわりから探して，ノートに書き，発表し合う。 ５．反対の意味の漢字を確かめ，あてはめる。 ○学習したことを振り返る。	○「なかまの言葉」について知るという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○家族内での関係を表す漢字があることを知り，いろいろな家族を表す言葉を理解できるようにする。 ○それぞれの漢字を声に出して読み，正しく読めているかどうかを確認する。 ○「時を表す言葉」の例を他にも探してみる。この場合，「きのう・きょう・あした」などのようにまだ漢字表記を学んでいないものを集めてもよい。 ○どんな仲間の言葉なのかについて着目させ，P91『「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう』の学習につなげられるようにしておく。 ○意味のつながりを考え，それぞれの漢字を関連させて覚えるようはたらきかける。 ○身のまわりから，意味をもとにした仲間分けの例を集めるようにする。 (例)「目・耳・口・手・足」「はれ・雨・くもり」「日・月・星」「犬・馬」など。 ○反対の意味を表す漢字を書くことを理解させてから，空欄にあてはまる漢字を記入する。 ○身のまわりから，反対の意味を表す漢字の例を集めるようにする。 （例）「入・出」「話・聞」「朝・夕」など。 ○これからの漢字の学習でも，仲間の言葉，反対の意味の言葉などにまとめる習慣がもてるとよいことをおさえる。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き，学習の見通しをもって漢字の意味のつながりを知ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6	4 （話す聞く2）	うれしく　なる　言葉	△言葉が表す意味と，その言葉にこめられる気持ちについて考え，話し合う。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1・2	○学校生活を振り返り，うれしかった言葉を想起して「うれしくなる言葉」について学ぶことへの見通しをもつ。 １．心に残っている「うれしかった言葉」を思い出して，①どんな時に言われたか，②誰から言われたか，③どんな言葉をかけられたか，④どう思ったかを思い出して，カードに書く。 ２．カードに書いたものをグループで見せ合い，会話をしながらお互いの気持ちを伝え合う。 ３．グループでの発表をもとに，次はクラス全体に代表者が発表する。 ４．家族に言われてうれしかった言葉を思い出し，話し合いながらいろいろなエピソードを見つけ，言葉と経験を結びつける。	○相手や自分への「うれしくなる言葉」について考えることをとおして，言葉にこめられる気持ちについて理解するという学習を意識づける。 ○どうしてうれしかったのかを考えさせる。それは，「言葉にこめられた気持ち」によるものであることを理解させる。そこから，言葉で表現することの大切さなどについて気づかせたい。 ○まずは小集団で伝え合うことで，言葉と気持ちを共有しやすい状況を作る。 ○うれしい言葉をクラスで共有し，うれしい言葉をかけ合う雰囲気を作ることにより，言葉が通じ合うと心も通じ合うということの大切さに気づかせる。 ○日常でも意識できるようにはたらきかける。どんなタイミングで声をかけられるといいかなど話し合うと，言葉の使い方にまで広がる。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】積極的に言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし，学習の見通しをもって「うれしくなる言葉」を伝え合おうとしている。
				3	５.挿絵の友達の作品を見て，友達にかけるとよい言葉を考える。 ６．言葉を考えながら友達にかける言葉はどういうものがうれしいのか，相手の立場に立ったものを考えられるとよいことに気づく。	○言葉の数が多ければいいわけではなく，相手の立場に立って，言葉を選んでいるかを大切にさせる。 ○工夫した点をちゃんと評価してくれたり，自分のことを理解してくれたりするコメントは嬉しい。また，自分が気づかなかったことを指摘してくれるコメントは，自分のことを見ていてくれているという気持ちが伝わると嬉しく感じる。よい人間関係の中で相手を思いやる心が言葉に表れるように考えさせる。	
				4	７．友達の素敵なところを思い浮かべて，みんなでうれしくなる言葉を伝え合う。 ○言葉によって相手や自分がどのような影響を受けるのかを考え，学習をまとめる。	○声の大きさ・調子，表情，身ぶりなどの話し方によって，気持ちが伝わることも気づかせたい。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
6～ 7	15 （書く3）	四　くりかえしに　気をつけて，とうじょう人物の様子を　読もう	**□繰り返し出てくる言葉に気をつけて，登場人物の様子や，場面の移り変わりに気がつく。**				
		きつねの　おきゃくさま	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)オ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表C(1)カ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表B(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表C(2)イ ☆生活科：身近な生き物などを登場人物にした物語を作り，友達に紹介する。 ☆道徳：D生命の尊さ　生きることのすばらしさを知り，生命を大切にすること。	1	○学習の見通しをもつ。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○範読または児童の音読により，全体を通読する。 ○繰り返し表現と，おもしろかったところの関係に気づかせる。 ○新出漢字の確認と練習をする。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像し，学習課題に沿って好きな場面を発表しようとしている。
				2・3	**確かめよう** １．P82「たしかめよう」の①②③の順序で，お話が繰り返されていることを確かめる。	○三回の繰り返しがあることを，「ここが大事」を参考にして，以下の観点から確かめる。 ①誰かが誰かと出会う。 ②すみかで，困っている。 ③そろって，きつねの家に行く。	
				4～9	**考えよう** ２．以下のそれぞれの時のきつねの思いを確認する。 （1）ひよこ，あひる，うさぎに「○○○お兄ちゃん。」と言われた時。 （2）「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」と言って，飛び出した時。 （3）恥ずかしそうに笑って死んだ時。	○挿絵も参考にしながら，きつねの考えたことを想像し，ノートに考えを書いてから交流させる。 ○きつねの思いを想像させる際に，どの叙述からそう考えたかという理由を交えて発表させるようにする。 ○挿絵にふきだしを使って，きつねの考えたことを書かせたり，ペープサートを利用したりすることも有効なてだてである。	
				10～12	**深めよう** ３．きつねの性格を考えて，訳とともに文章に書き，それをもとに話し合う。	○きつねの性格を一つに決める必要はない。それよりも，それぞれが文章表現のどこを手がかりにして考えたのかを，はっきりと示すことができるようにさせたい。 ・「このきつねは○○なきつねだと思います。どうしてかというと……のときに，……をしていたからです。」	
				13～15	**広げよう** ４．この話の好きな場面を発表する。 ○学習を振り返る。	○どの場面が好きなのか，どうしてそう思ったのか，考えをノートにまとめる。 ○好きな場面を選んだ人どうしで集まり，その場面のよさを伝え合い，その場面のよさを改めて考える。 ○好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み，思ったことを交流する。 ○改めて好きな場面を考え，ワークシートや画用紙にまとめる。このお話の魅力は，さまざまであることにも気づかせる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
7	5	いなばの　しろうさぎ	△古くから伝わっている話を，興味をもって聞き，場面の様子を想像する。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。　⇒◎知技(3)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆生活科：地域に伝わる昔話や神話・伝承などを調べ，興味をもつ。 ☆道徳：Ｃ伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度　我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。	1 2・3 4・5	○学習の見通しをもつ。 １．絵を見て，どんなお話なのか，ストーリーを予想する。 ２．絵を見ながら，教師の音読を聞いて，場面の絵をもとにお話を確かめる。 ３．昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読む。 ○学習を振り返る。	○ P86・87の挿絵を手がかりにしながら，どんなお話なのかを予想させる。人物の服装から，この話のおおよその時代を考えたり，うさぎとわに（わにざめ）が登場することなどを話し合わせる。 ○教師の範読を聞く。その際，教科書の文章を目で追わせる。P86・87の挿絵を使って，話の順序をおさえさせる。 ○おもしろかったところを発表させる。 ○ほかの日本の神さまの本や絵本を読む。 ※地域の神社などの祭神について調べて知らせ，それにまつわる神話等に興味をもたせると生活に広がる。	◎【知識・技能】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【態度】進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き，今までの学習を生かして昔話や神話・伝承の書かれた本を探して読もうとしている。
7	4 （書く4）	「かんさつ発見カード」を書こう	■観察して同じところや違うところを見つけ，「かんさつ発見カード」を書く。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒◎知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科：観察カードを書く活動などに生かすことができる。	1 2 3 4	○学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．生活科の学習で継続して観察している動植物などから書く対象を決める。 ２．新しく観察して気づいたことをメモに書き出す。 **組み立てよう・くらべよう（重点）** ３．メモを組み立て表の上に並べてみる。 ４．３のメモとこれまでに書いた観察記録を比べ，同じところと違うところに目を向ける。 **書こう・読み返そう** ５．比べて気づいた点を「発見」として「かんさつ発見カード」を書く。 **伝え合おう** ６．お互いに読み合う。 ○　学習を振り返る。	○この学習での「発見」の意味をおさえておく。 「発見」…今までと違うことや同じことを見つけて，新しく気づいたこと。 ○組み立て表に仮置きして，今までの観察記録と比べてみる。 ・成長の変化は違う点，色は同じ点である。変化の中の共通点を見つけたことが「発見」である。情報を共通点・相違点をもとに比べるという経験をさせる。 ○「はじめ」「中」「おわり」という構成に出合う第一教材である。意識させたい。 ○実際に書くときは，「発見」のとらえを厳密にするのではなく，情報を共通点・相違点でみようと考えているかを重視したい。 ○「発見」について着目して，読み合う。 ○学習のめあてにそって振り返る。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） 【態度】粘り強く事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，学習の見通しをもって「かんさつ発見カード」を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
7	2	「言葉のなかまさがしゲーム」をしよう	△言葉が体系性をもって存在していることに気づき，上位語・下位語の概念に基づいて，言葉を探したりまとめたりする。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1	○言葉が仲間ごとにまとめられるということを知り，学習活動に対する見通しをもつ。 １．「言葉のなかまさがしゲーム」を行うための準備をする。	○教材冒頭の会話文を読み，みんなで「言葉のなかまさがしゲーム」の問題を作って出し合うという活動を行ってみたいという意欲をもたせる。 ○Ｐ91の下段を読み，「だいこん・にんじん・じゃがいも」は「やさい」という仲間（上位概念）でまとめて言うことができ，「りんご」は「くだもの」の仲間に含まれる下位概念であることを理解させる。 ○Ｐ92の上段を読み，まずはクラス全体で仲間ごとにどのような言葉があるのか集めてみる。 ○グループに分かれ，教科書に示されているもの以外の「なかま」を設定し，それに合わせて言葉を集めてみる。 ○ある程度言葉を集めたら，それが設定した「なかま」に含まれるかどうかを各グループで確かめさせる。 ○言葉をグループで集める活動の中で，一つの上位概念も下位概念も，更にその上位概念・下位概念にあたる場合があることにも気づかせたい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使っているとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし，学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
				2	２．前時に集めた言葉を用いて「言葉のなかまさがしゲーム」の問題づくりを行う。 ３．別のグループの友達と一緒に「言葉の仲間さがしゲーム」を行う。 ○学習したことを振り返る。	○グループで集めた言葉の仲間から幾つかを選ばせ，そこに別の仲間の言葉を交ぜて問題を作らせる。 ○別のグループの児童と二人で組みになって問題を出し合う。 その際，ただ作った問題を見せるだけのやりとりにするのではなく，教材冒頭部にある「質問―応答」を意識して対話するよう促していくことが必要となる。 ○Ｐ93下段を読んで言葉における上位語と下位語について理解できたかどうかを確かめる。 ○上位概念を理解させる場合には，「まとめていうと」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。 ○下位概念を理解させる場合には，「細かく分けていうと」という言い方をするとわかりやすいということを理解させる。	
9	5 （話す聞く5）	**話したいな，聞きたいな，夏休みのこと**	◇夏休みの思い出を，順序を考えて話したり，友達の話を聞いて感想を述べ合ったりする。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア	1	○夏休みのできごとを順序を考えて話すという学習の見通しをもつ。 （1）久しぶりに会った友達と夏休みのことを二人で組みになり交流する。 （2）友達の話が聞きたいという思いを高め，紹介し合う活動を見通す。	○この教材では，夏休み後の学校生活も楽しく始められそうだという雰囲気を何よりも大切にしたい。 ○夏休みの絵日記で書いた話題や自由研究についての話は，話しやすく，聞くほうも絵や実物を見ながら聞くことができ興味をもちやすいので，大いに活用させたい。	◎【知識・技能】姿勢や口形，発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え，今までの学習を生かして夏休みのできごとを紹介しようとしている。
				2・3	**組み立てよう（重点）** １.三人で組みになり，話す練習をする。 （1）話す順番を考えてメモを書く。 （2）話す練習をする。聞き手は質問や感想を伝える。	○「どこに行った」「誰とどうした」だけで終わることがないように，（いつ・どこで・誰と・何を・なぜ・どのように）……した。ということを視点にさせる。 ○1学期の学習「メモをもとに文章を書こう」を生かして，「はじめ」「中」「おわり」が書けるワークシートを用意し，必要な児童には使わせる。 ○よくわからないことは質問をしたり，感想を伝えたりしながら聞くようにする。	
				4・5	**話そう・聞こう** ２．クラスのみんなに話す。 （1）紹介し合う活動を行う。 （2）話せたこと，聞けたことを振り返り，今後の学習も友達とともに充実させていこうという意欲を喚起する。 ○学習を振り返る。	○学級の実態に合わせ，発表の場は全体やグループにするなど工夫する。 ○聞き手は質問や感想を考えながら聞き，発表するようにする。時間等を考慮して質問者の人数や，あらかじめ感想を言う担当を決めるなど工夫する。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	2	**漢字のひろば　③** 二つの漢字でできている言葉	△二つの漢字でできた言葉の構成を確認し，二つの漢字のつながり方を考える。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「小石」「大木」「白線」という言葉の意味を考える。 ２．「子牛」の例をもとに「親鳥」「海水」「人名」という言葉の読み方と意味を考え，二つの漢字のつながり方を話し合う。	○二つの漢字のつながり方と言葉の意味を考えるという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○二つの漢字が互いにつながりをもって結びついていることに意識が向けられるようにする。 ○提示する複合語や熟語を読み下すことで，意味を考えられるようにする。 ○「どのような→□」（「小石」「大木」「白線」など），「何の→□」（「子牛」「親鳥」「海水」「人名」など）のように，語相互の関係に着目できるようにする。 ○これらの言葉を使って短文を作り，発表し合うようにする。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を書き，学習の見通しをもって二つの漢字でできている言葉を読んだり書いたりしようとしている。
				2	３．「青空・夜空・夏空」，「朝市・朝日・朝会」などの言葉の意味について話し合う。 ４．「毛糸」を例に，二つの漢字をつないで言葉を作り発表し合う。 ５．「同じ点数」は，「同点」という二つの漢字でできた言葉になることを理解する。 ６．二つの漢字を組み合わせて，いろいろな言葉を作り，発表し合う。	○「□→空」「朝→□」と読み下し，二つの漢字の意味関係を考えさせる。 ○同じ「空」でも，「青空－青い空（晴れ上がって青々とした空）」「夜空－夜の空（夜の暗い空）」「夏空－夏の空（夏の晴れたまぶしい空）」とその違いが比べられるとよい。 ○「朝の□」では共通しているが，「朝市－朝の市（朝開く魚・野菜などの市）」「朝日－朝の日（朝，東から昇る太陽）」「朝会－朝の会（朝，一日の始まりにみんなが集まって行う会）」などと具体的に考えられるとよい。 ○つないで作った言葉の意味を考え，どんなときにどのように使うかも発表し合えるとよい。 ○二つの漢字でできた言葉を考え，理解できる語句の量や範囲を広げるようにする。 ○二つの漢字を組み合わせて言葉を作り，それをもとに短文を作り，発表し合い，話し合い，意見を出し合うことができるようにしたい。 ○二つの漢字を線でつないで言葉を作る活動の要領が理解できたら，同様の問題作りに取り組ませてもよい。	
	2 （書く2）	**漢字のひろば　③** 一年生で学んだ漢字　②	△絵を見て想像したことをもとに，１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒◎知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動　⇒思判表Ｂ(2)ア	3・4	７．絵の中の言葉の読み方を確認する。 ８．教科書の絵と言葉を参考に，広場の様子から想像できる短文を作る。 ９．主語と述語のつながりに気をつけて，絵の中の言葉を使って２文以上が続くように書き，発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと，言葉からわかる広場の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ○描かれている人物と行為，場の状況，物品など，視点を提示するとわかりやすい。 ○まず，広場で，誰が何をしているかを「……が」「……は」で始まる文を書く。 ○語と語の続き方を考えて，主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 ○文と文の続き方に注意しながら，続きの文を書く。 （例）女の人が三びきの犬をさんぽさせています。また，ベンチのところで，おじさんが休んでいます。 ○二つの漢字でできている言葉について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に文の中における主語と述語の関係に気付こうとし，学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	12 （書く3）	五　したことや言ったことから，登場人物の考えを読	□登場人物のしたことを思い浮かべながら読み，登場人物に手紙を書く。				
		わにのおじいさんのたからもの	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｄ感動，畏敬の念　美しいものに触れ，すがすがしい心をもつこと。	1	○単元の見通しをもつ。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○範読あるいは児童による音読によって，通読する。 ○新出漢字や難語句を確認する。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ）
				2～5	**確かめよう** １．どんなお話か確認する。 （1）登場人物を確認する。 （2）始めと終わりの場面を比べて，お話の中でどんなできごとがあったのかを確かめる。主なできごと（おにの子とわにのおじいさんの行動）を確認する。	○登場人物，主なできごと（おにの子の行動）に線を引きながら読み，順にノートにまとめる。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ）
				6～8	**考えよう** ２．登場人物の気持ちを想像する。 （1）わにのおじいさんは，どうしておにの子に宝物の場所を教えたのか。 （2）おにの子，わにのおじいさんの，それぞれにとっての「たからもの」は何か。	○「ここが大事」に示された例を取り上げて，どの表現からどのような「登場人物の考え」が想像できるかを考えさせるとよい。その際，簡単な動作化や，ふきだしの書き込みなどをとおして，人物の様子を想像させることも考えられる。 ○わにのおじいさんがおにの子の行動や言葉に心を打たれて宝の場所を教えていることをおさえる。宝の場所を教えたときの気持ちを想像する根拠とさせるとよい。 ○宝物までの旅の様子については，詳細に書かれてい	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像し，学習課題に沿って登場人物に手紙を書こうとしている。
				9	**深めよう** ３．おにの子は，どのような人物だと思うか。	○主なできごととして，おにの子の行動にサイドラインを引いたところを手がかりにしながら，おにの子の人柄を考えさせる。	
				10・11	**ひろげよう** ４．お話のおもしろいと思ったところや，素敵だなと思ったところを発表する。	○お話のおもしろいと思ったところや，素敵だなと思ったところに線を引き，なぜそう思ったのか理由も加えてノートにまとめ、発表する。 ○作品の魅力はさまざまであることに気づかせる。 ・わにのおじいさんが，自分のたからものをあげてもよいと思える相手にであえたことが素敵。 ・自然と優しい行動ができるおにの子が素敵。 ・大変な道を進みながらも，おじいさんのたからものを探しに行くおにの子のたくましさがいいと思う。 ・たからものの箱に気づかず，「せかい中でいちばんすてきな夕やけ」がたからものだと感じられるおにの子がいいなと思う。 ・おじいさんは，素敵な夕やけが見られることを知っていて，ここにたからばこをおいたのではないかと思うと素敵。	
				12	５．話し合ったことをもとに，おにの子か，わにのおじいさんに手紙を書く。 ○学習を振り返る。	○読者から登場人物への手紙でも，登場人物になりきって相手に手紙を書かせる設定でもよい。 ○文章を交流して読み合う。その際に，友達の文章のよいところを口頭で告げるような活動を入れるとよい。 ○Ｐ114の「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9	2	はんたいのいみの言葉，にたいみの言葉	△対義語や類義語があることを知り，身近な言葉から対義語や類義語を集める。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1	○言葉には，反対の意味をもつものや，似た意味をもつものがあることを知り，学習活動に対する見通しを持つ。 １．「はんたいのいみの言葉」にはどのようなものがあるかを考え，組みになるカードを作る。 ２．作ったカードを友達どうしで確かめ合う。	○Ｐ116・117の上段にある会話文を読み，反対の意味の言葉と似た意味の言葉に興味をもち，自分からそれらを探してみたいという意欲をもたせる。 ○Ｐ116の下段にある設問をクラス全体で考えたのち，板書・ワークシート等によって，ほかにどのような言葉が反対の意味をもつのかについて理解を深め，各自で反対の意味をもつ言葉を探させる。 ○うまく言葉を見つけることのできない児童に対しては，教師の側から言葉を一つ示し，その反対語を考えさせるようにする。 ○打ち消しの言葉を反対語としないように気をつけさせたい。 ○作ったカードが反対の意味になっているかどうかを迷うものについては，全体で共有し確認を行う。 ○確認がすんだカードを友達どうしで一つにまとめ，マッチングゲーム（バラバラに並べて反対語のペアを見つけるゲーム）をすることにより，知識の定着を図ってもよい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付こうとし，学習の見通しをもって言葉を分類しようとしている。
				2	３．「にたいみの言葉」にはどのようなものがあるのかについて考える。 ４．「にたいみの言葉」を分類したり，整理したりして，気づいたことを話し合う。 ○学習したことを振り返る。	○Ｐ117下段の一つめの設問をクラス全体で考えたのち，板書・ワークシート等によって，ほかにどのような言葉が似た意味をもつ言葉になるのかについての理解を深めさせる。 ○教科書の既習ページやワークシートを活用するなどして，それらの中で用いられている言葉と似た意味の言葉を各自で探させる。 ○Ｐ117下段の二つめの設問や自分で探した似た意味の言葉を分類・整理させ，気づいたことを発表させる。 ○教科書巻末にある『言葉の　木』（Ｐ144）を参照しながら，反対の意味の言葉や似た意味の言葉のもつ特徴についてまとめる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
9～ 10	11 （書く11）	六　まとまりを考えて書こう	■「はじめ」「中」「おわり」のまとまりを考えて，町探検報告文を書く。				
		町の「すてき」をつたえます	△長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科：生活科見学の報告文を書くときに生かすことができる。	1 2～4 5～7 8～10 11	○「学習のすすめ方」を読み，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．探検してわかったことを，メモに書く。 （1）探検したい場所を決めて探検し，探検したことを「町たんけんカード」に書く。 （2）「町たんけんカード」の中から，「見つけたこと」「聞いたこと」「思ったこと」などを抜き出してメモに書く。 （3）メモに書いたことについてペアで読み合い，話し合う。 **組み立てよう（重点）** ２．「はじめ・中・おわり」に何を書くか考える。 **書こう・読み返そう（重点）** ３・４．文章を書き，読み返す。 **伝え合おう** ５．書いた文章を読み合い，よいところを伝え合う。 ○学習を振り返る。	○生活科の町たんけんの学習と関連させるなど工夫したい。 ○メモは短い言葉で書くこと，観点別にマークを入れることをなどを確認する。 ○友達と話し合うなかで更に書きたすとよいことなどをメモに書く。 ○書いたメモを「はじめ」「中」「おわり」を意識して，三つのまとまりに分け，構成を考える。 ○順序にしたがって書かせるようにする。この学習では時間的順序や場所的順序を意識させ，選ばせるようにする。 ○紙面の関係で「中」が２段になっているが，実態に合わせて工夫するとよい。 ○P122の「大事な言い方」を使うと順序がわかりやすくなることをおさえ，使えるようにさせる。同様に伝聞の文末についてもおさえ、使うようにさせる。 ○順序がわかりやすく書いてあるかに着目して読み合い，よさを伝える。 ○めあてにそって学習を振り返る。	【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章を読み返す習慣を付けているとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え，今までの学習を生かして報告する文

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	2（書く1）	七　しゃしんをくらべて，考えよう	□１枚めの写真から視点を定めて，２枚めの写真になった際，何かが起きたことを想像する。				
		この間に何があった？	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ	1・2	○学習の見通しをもつ。 １．１枚めの写真と２枚めの写真を比較して，間に何があったのかを想像し，表現する。 （1）1枚目と2枚目の写真の違いを見つける。 （2）見つけた違いをもとにして，間にどのようなことが起きていたかを想像する。 （3）想像したことを書いたり，話したりして表現する。 （4）友達と自分の想像の同じところ，違うところに気がつく。 ○学習を振り返る。	○違いを見つける際，大切なのは，視点を定めることである。１枚めと２枚めを比べて，「おもちゃがお風呂から出ている」「水の量が減っている」の２点をおさえる。おさえたことをもとにして，なぜおもちゃがお風呂から出たのだろう」「なぜ水の量が減ったのだろう」に焦点を絞って，想像したことを書いたり話したりさせるとよいだろう。 ○想像したことを表現する際には，「まず」「次に」「そして」などの，順序を表す言葉を使うことをおさえる。 ○どの考えにも必ず理由があることと，それぞれの理由に違いが見られることにふれる。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解し，学習課題

令和5年国語科評価規準　第2学年

単元・教材のねらいと，「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から，あてはまるものを表示。重点指導事項には，◎を付した。
△知識・技能　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科との関連

〔第１学年及び第２学年〕目標（「学びに向かう力，人間性等」の単元目標）
(1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。
(3) 言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10	－	二年生で学ぶこと					
10	11 （話す聞く3）	一　じゅんじょや様子に気をつけて読もう	□さけの成長について，季節や場所，さけの様子の移り変わりを考えながら，内容の大体を読む。				
		さけが大きくなるまで	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア ☆生活科：順序に気をつけて観察文などをまとめたり，調べたことを発表したりする。	1	○学習に見通しをもつ。 **確かめよう** １．さけについて知っていることや，写真を見て考えたことを話し合う。 (1) おもしろいと思ったこと，不思議に思ったことの二つの視点で感じたことを短い文で書く。 (2) 書いた事柄をクラス全体で交流する。 (3) 今後の学習の流れを確かめる。	○まず，さけについて知っていることを話し合い，次に，題名も手がかりに加えて話し合うことで，文章を読む際の課題意識を高めておく。 ○さけの成長の様子を表す言葉の順序に気をつけて，さけが大きくなる様子を説明するという学習の流れを確認する。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ）
				2～5	**考えよう** ２．さけが大きくなる様子を，時・場所・大きさや様子を表す言葉に気をつけ，まとめる。 (1) 「時」「場所」「大きさや様子」が書かれた言葉にサイドラインを引く。 (2) サイドラインを手がかりにして，表にまとめる。 (3) 全体で交流し，まとめたことの確認をする。	○さけの成長を追いながら，いつ（時）どこで（場所）どんな（大きさや様子）の視点で，ワークシートにまとめる。 ○学習の手引きを参考にして，文章の中の大事な言葉や文を書き抜くようにする。 ○ここでワークシートを用いるのは，3の活動で，さけが大きくなる様子を説明する際，配置された教科書の写真を用いて，世代が繋がっていく様子を伝えられるようにするためである。 ○ここでさけの成長をまとめたワークシートは，説明原稿を作るもとにしてもよいし，より進んだ段階では，原稿を読まずに，ワークシートをメモ代わりに用いて話すようにしてもよい。 ○時や大きさの変化を表す言葉をおさえる。短冊に言葉を書いておき，視覚的に見やすくしておくなどして，的確におさえるとよいだろう。	◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に文章の中の重要な語や文を考えて選び出し，学習課題に沿ってさけが大きくなる様子を説明しようとしている。
				6～8	**深めよう** ３．写真を使って，さけが大きくなる様子を説明する。 (1) 教科書の順に，川を上る写真から説明を行う。 (2) 説明の感想を友達どうしで伝え合う。 (3) 説明の仕方がわかりやすかったか，振り返る。	○続きを考えることで，子どもだったさけが再び冒頭の部分「秋になるころから……」の内容に戻っていることをおさえる。実際に続きの説明文を3文程度，書かせてもよいだろう。 ○「言葉」の設問を参考にして，一枚の写真の中での事柄の順序や写真と写真の間にある事柄の順序を表すようにする。	
					(4) 卵の写真から説明を行う。	○教科書の例文に続けて説明するようにし，時や様子の変化を表す言葉に気をつけながら，文章を考えることを意識させるようにする。 ○「海を泳ぐさけ」の写真から説明させてもよい。	
				9・10	**広げよう** ４．さけが大きくなる様子について，わかったことや考えたことをノートに書いて，発表し合う。 (1) 本で調べたことをノートに書く。 (2) 書いたことを友達どうしで発表する。	○「本を読もう」に掲載した本を参考にするとよいだろう。 ○調べ学習が中心の単元ではないため，読んでみて，おもしろいと思ったことを紹介する程度でよい。	
				11	(3) 発表についての感想を交流する。 ○学習を振り返る。	○「時・場所・大きさや様子をあらわす言葉に気をつけて，さけが大きくなる様子を読むこと」や，「じゅんじょに気をつけて，さけが大きくなる様子をせつめいすること」ができたかを，発表をしたときのできぐあいから自己評価させるとよい。時や場所，大きさや様子を表す言葉を用いたか，が指標となる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
10 ～ 11	10 （書く 10）	二　様子をよく見て，くわしく書こう	■見つけた物をよく見て，様子が伝わるように詳しく文章を書く。				
		おもしろいもの，見つけたよ	△身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。	1 2 3～6 7～8 9 10	○「学習の進め方」を読んで，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．見つけたものから，書くことを決める。 **組み立てよう** ２．見つけたものの様子をメモに書き，まとまりごとに並べる。 **書こう（重点）** ３．文章を書く。 **読み返そう** ４．書いた文章を，声に出して読み返す。 **伝え合おう（重点）** ５．友達と文章を読み合う。 ○学習を振り返る。	○生活科と関連させるなど工夫したい。 ○メモをもとにして，観察記録文を書くというおおまかな学習の流れを確認させる。観察記録文自体は既習のものであるが，ここでは，メモを同じ観点でまとめる，矢印の使用，同じ大きさのものを提示するなど思考のてだてを重点的に学習させる。 ○見つけたものの様子を短い言葉でメモに書く。形，大きさ，色など観点となる言葉を書かせておく。 ○「はじめ」「中」「おわり」を示した構成表の上にメモを置き，まとまり（観点）を考えさせる。適宜，並べ替えさせ再考させる。 ○最終的には，メモを固定させ実際に枠で囲ませるようにする。思考の跡を視覚化し，意識させる。 ○例文を読み，「大事な言い方」に着目させる。観察対象の大きさを数値と共に同じ大きさのものを提示してイメージしやすくしたり，矢印を用いて大きさの向きを表したりしていることに気づかせる。今後も使える思考のてだてとしておさえたい。 ○書くときにもまとまりに気をつけて書くようにさせる。 ○声を出して読むことで，推敲を習慣とし，誤字脱字などに自分で気づかせるようにする。 ○まとまりごとにわかりやすく書いているか，同じぐらいの大きさなどイメージしやすいものを提示できているかなど，互いによいところを見つけ，感想を伝える。 ○めあてにそって，学習を振り返る。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使って いるとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】進んで文章に対する感想を伝え合い，学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
11	2	**しを読もう** てんとうむし 木	□言葉のリズムや響きを楽しみながら，イメージの自由な広がりをとおして詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1・2	１．『てんとうむし』を音読し，気がついたことを発表し合う。 ２．『木』の音読をとおして，どのような木か，大きさや形などを想像し合う。 ３．二つの詩のうち，気に入ったほうの詩を音読し合う。	○どんなに小さな生き物でも，どんなに大きな生き物でも，生きとし生けるもの全て，「いのちをいっこもっている」。その事実を確かめたい。 ○それぞれの「いのち」に違いがあるのか。二年生なりに考えさせる。 ○自分の好きな木について考えさせてもよい。 ○「てんとうむし」や「ぼく」になったつもりで，読み方を工夫して音読する。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，言葉には意味によ る語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて，学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	12	三　だれが，どのようにかわったかを考えて読もう	**□△登場人物のしたことや言ったこと，場面の様子を読み，読書の世界を広げる。**				
11	7	ないた赤おに	□登場人物の気持ちの移り変わりを考えながら，『ないた赤おに』を読み，心に残ったことを話し合う。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｂ友情，信頼　友達と仲よくし，助け合うこと。	1・2 3・4 5～7	○学習に見通しをもつ。 **確かめよう** １．主な登場人物とできごとを確かめる。 **考えよう** ２．赤おにが変わったところがあるか，人間たちや青おにとの関わりから考える。 **深めよう** ３．赤おにと青おにを，それぞれどのような鬼だと思うか。 **広げよう** ４．このお話を読んで，心に残ったところとその訳を紹介し合う。 ○学習を振り返る。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○通読して最初の感想を交流してもよい。 ○新出漢字や難語句を確認させる。 ○場面ごとに，登場人物とできごとを簡単に整理して，ノートにまとめる。 ○赤おにの心の変化ではなく， ・「赤おにの人間たちとの関わり」 ・「赤おにと青おにの関わり」 がそれぞれ，どう変わったのかを確認する。 ○赤おにと人間たちの関係が変化したきっかけや，赤おにと青おにの関係が変化したきっかけをおさえる。 ※「ここが大事」を読み，きっかけをおさえながら確認していく。 ○「たしかめよう」で作成した表（場面ごとの登場人物・できごとをまとめた表）を生かしながら，それぞれのしたことに着目させ，どんな人柄であるのかを考えさせていく。 ○心に残ったところとその訳を，ノートに書く。 ○書いたことを友達と紹介し合い，このお話の魅力は，さまざまであり，その魅力を表現する言葉もさまざまであることに気づかせる。※知技の語彙の指導とも関連させる。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像し，学習課題に沿って心に残ったところを文章にまとめようとしている。
11	5	「お話びじゅつかん」を作ろう	△自分の読んだ本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介する。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △読書に親しみ，いろいろな本があることを知ること。　⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ □学校図書館などを利用し，図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み，分かったことなどを説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ	8・9 10・11 12	○本の中でいちばん心に残ったところを絵に描いて紹介するという学習内容をつかみ，学習の見通しをもつ。 ５．読みたい本を探して読み，心に残ったことやその訳をメモする。 ６．「お話びじゅつかん」の作品を作る。 （1）紹介したい本を選び，心に残ったところを絵に描く。 （2）作品に題名を工夫してつけ，展示する。 ７．「お話びじゅつかん」の作品の前で，本を紹介し合う。 **○学習を振り返る**	○「お話びじゅつかん」の概要を知らせ，学習の見通しをもたせる。 ○巻末の『２年生で読みたい本』を参考にさせたり，教師や学校司書が本の紹介を行ったりし，いろいろな本に興味を広げていけるようにする。 ○読んだ本の題名，作者，心に残ったところやその訳をメモさせる。 ○たくさんの本を読ませ，その中から作品にする本を選ばせる。 ○本にある絵をまねるのではなく，想像を膨らませて描かせる。 ○作品の題名は，絵にした場面の様子を表す言葉や主人公に呼び掛ける言葉などを考えさせ，工夫してつけさせる。 ○展示の際には，「昔話コーナー」「鬼の出てくる話」などテーマごとにコーナーを作ってもよい。 ○展示した作品の前で，お話のあらすじ，おもしろいところや心に残ったところなどをポスターセッションのように紹介し合う。質問して答え，更に感想や質問をつなげるなど言葉のキャッチボールを意識させたい。 ○説明者と質問者が，相互に役割を交代しながら行う。 ○機会があれば他学級の児童や保護者にも紹介する機会を作る。 ○友達が紹介した本を読むように薦め，読書の日常化を図りたい。	◎【知識・技能】読書に親しみ，いろいろな本があることを知っている。（〔知識及び技能〕(3)エ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に読書に親しみ，学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	8 （話す聞く8）	四　しつもんしたり答えたりして，話し合おう	◇話し合いでクラスで行う遊びを決め，「クラスお楽しみ会」を開く。				
		「クラスお楽しみ会」をひらこう	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(1)ア △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐこと。　⇒◎思判表Ａ(1)オ ◇尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	1 2〜5 6・7 8	○単元名や教材名を読んで「クラスお楽しみ会」を開くことを知り，クラス遊びの内容を決める話し合いについての流れを捉える。 **決めよう・集めよう** １．やりたい遊びを考える。 **組み立てよう** ２．考えた遊びとその理由をカードに書く。 **話そう・聞こう（重点）** ３．話し合いを行い，クラスに伝える。 （1）カードを使って，互いに質問したり答えたりする。 ・発言のまとめ方を知り，グループのカードを分類し，似た遊びをまとめる。 （2）グループの話し合いをクラスに伝える。 **伝え合おう** ４．感想を伝え合う。 ○手順にそって話し合いが進められたか，また，話し合いの時にわかりやすく理由を話したり，わからないことを確かめたり，質問したりできたかなど，学習を振り返る。	○「クラスお楽しみ会」のイメージをもたせ，教科書の手順や気をつけることをもとに，自分たちでクラス遊びの内容を決め，「クラスお楽しみ会」を開く意欲をもたせる。 ○「クラスお楽しみ会」のおおまかな流れは以下の案がある。 ①　始めの言葉 ②　外遊び①「　　」②「　　」 ③　室内遊び①「　　」②「　　」 ④　先生のお話 ⑤　終わりの言葉 ＊遊びの種類や数は，学級の実態に合わせて調整するものとする。 ○全体を読んで手順を把握したら，P50下部の「学習のすすめ方」で確かめさせ，ノートに学習計画をまとめ，単元の見通しをもたせるようにする。その際，特別活動の時間などの活用を意識させ，話し合いののち，準備をして実際に「クラスお楽しみ会」を実施する計画も加えさせるようにして，ゴールイメージを形成したい。 ○したい遊びが，遊びの種類ごとに分けられることに気づかせる。 ○手順にそって，教科書本文で内容や留意点を確認し，グループで話し合いを進めるようにする。 1．カードに書き出す。 2．質問し合う。 3．カードを遊びの種類ごとに分けて，整理する。 4．出し物を決定する。 5．振り返りをする。 ○何を基にして分ければいいのかは，2年生に考えさせるのは難しい場合がある。「投げる遊び」「おに遊び」「昔遊び」など，教師が基準を示してもよいだろう。 ○「ドッジボール」と「フリスビー」で「ドッジビー」など，カードとカードを合わせた遊びがあるか，生活経験の中から思い出させるとよい。 ○ルールがはっきりしているか，勝敗がはっきりするものか，などを確認する。 ○クラス遊びを決めるまでの話し合いの全体を振り返り，協調的な話す・聞くの態度が大切なことを感じ取らせるようにする。 ○特別活動の時間等を使って，「クラスお楽しみ会」を開く。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 （〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつないでいる。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】積極的に互いの話に関心を持ち，今までの学習を生かして少人数で話し合おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
11	5 （書く 5）	みじかい言葉で	■心が動いたことを短い言葉で書く。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	1	○P54・55を読み，学習活動を理解して見通しをもつ。	○リズムを楽しみながら読んだり，様子を思いうかべながら読んだりして短い言葉で表現するよさや面白さを味わわせる。上の学年の創作詩につながる教材である。自分の気持ちが素直に伝わる言葉を探させたい。 ○学級文庫など身近なところに詩の本を配置し，興味・関心をもちやすくする。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら，学習の見通しをもって心が動いたことを短い言葉で書こうとしている。
				2	１．教科書の詩を読み，作者は何を感じて心が動いたのか，それをどのように書いたのかを話し合う。	○教科書にある三つの詩を比べさせ，お気に入りの詩とその理由を交流することで，それぞれの表現の特徴やおもしろさに気づかせたい。 ・「まっかな太陽」：繰り返し。 ・「ピアノ」：音を表す言葉の面白さ。 ・「かたつむりになったら」：なりきり。	
				3・4	**書こう・読み返そう（重点）** ２．心が動いたことを短い言葉で書く。 （1）気づいたことや，その時の気持ちを，短い言葉で書く。 （2）友達と交換して作品を読み合い，自分が書いた言葉を読み返し，更にに取り入れたい表現などがあれば書きかえる。	○見たこと，したこと，感じたことを思い出させてから（日記などを利用して思い出させてもよい），教科書にある詩をヒントにして，短い言葉に工夫させていくとよいだろう。 ○書けない児童には，なりきりの詩を使ったり，見立て遊びを使ったりするとよい。授業者も一緒になって楽しみ，そのやりとりが詩になることを経験させる。 ・なりきり：T「○○になって一言，どうぞ！」C「……。」 ・見立て遊び：事物を見て，T「何に見える？」C「○○にみえる」T「○○で何をする。」C「……する。」節をつけて尋ねると児童ものりやすい。遊び感覚で多作できる。	
				5	**伝え合おう** ３．クラスの友達と読み合い，感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○友達の作品のよいところを見つけて，感想を伝え合う。具体的には，繰り返しのリズム，音を表す言葉のおもしろさ，なりきりや見立てのおもしろさ，題名の工夫などである。 ○付箋紙などに感想を書いて渡すと，更に興味・関心をもちやすい。 ○めあてにそって学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
12	2	**漢字の広場　④** 漢字のつかい方と読み方	△漢字の使い方や読み方，意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。 １．「生」という漢字のいろいろな使い方を考える。 ２．P56上段の設問をもとに「生」の読み方について，話し合う。 ３．「後」「行」「通」の読み方と，それぞれの意味の違いを考え，話し合う。	○いろいろな使い方と読み方がある漢字について知るという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ○これまでに学習した用例を思い起こすとよい。 ・生きものクイズを作ろう。 ・たまごからさけの赤ちゃんが生まれます。 ・生活科の町たんけん。 ○P56上段の例文を声に出して読み，読み仮名をふって，漢字の読み方の違いを確かめ，それぞれの意味の違いを考えるようにする。 ○同じ漢字でも，言葉によって違う読み方をするものがあることに興味がもてるようにする。 ○複数の読み方がある漢字について，ほかの言葉や漢字とのつながりを考え，使い方・読み方・意味などに着目して読むということをおさえる。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 （〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み，学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。
				2	４．送り仮名によって読み方が変わる漢字をもとに，「おくりがな」の役割を考える。 ５．P57下段の設問をもとに，読み方によって送り仮名が変わることを理解する。 ６．複数の読み方がある漢字を集めて，短文を作り，発表し合う。	○「おくりがな」という語と，その意味，役割を理解できるようにする。 ○「出る・出す」「回る・回す」「売れる・売る」などは，助詞に着目し，動詞とつなげて考えることもできる。 ○送り仮名の決まりについて，機械的に覚えるのではなく，おおまかなイメージがもてるようにする。 ○読み方の違い，送り仮名の違いに気づくことができるようにし，なぜそのようになったか意識できるようにする。 ○P158『二上までに学んだ漢字』を参考に，たくさんの読み方がある漢字がほかにもあるか探し，語例を考え，それをもとに短文作りに取り組むとよい。	
12	2 （書く2）	**漢字の広場　④** 一年生で学んだ漢字　③	△絵を見て想像したことをもとに，１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ	3・4	７．絵の中の言葉の読み方を確認する。 ８．教科書の絵と言葉を参考に，絵に描かれている様子から想像できる短文を作り，語と語の続き方に注意して文を書く。 ９．主語と述語のつながりに気をつけて，絵の中の言葉を使って２文以上が続くように書き，発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	○絵に描かれたことと，言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。 ○絵の中には，「目・耳・手・足」「上・下」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 ○語と語の続き方を考えて，主語と述語が整ったまとまりのある文となるようにする。 ○文と文の続き方に注意しながら，続きの文を書く。 （例）女の子は，テーブルの上にノートをひろげ，文を書いています。そして，男の子は，手や足をうごかし，体そうをしています。 ○漢字の使い方と読み方について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き，学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
12	19 （書く 10）	五　わかりやすくせつめいするための，くふうをたしかめよう	□■説明の順序を正しく捉えながら読み，おもちゃの作り方を説明する。				
12	12 （書く 3）	「しかけ絵本」を作ろう	□説明の順序に気をつけながら，「しかけ絵本」の仕組みや作り方を書いた文章を読む。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み，分かったことや考えたことを述べる活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア ☆生活科・図工：順序に気をつけて作業の手順を説明する文章を書く。	1	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．「しかけ絵本」の作り方を写真から確かめる。 （1）用意する材料と道具は何か。 （2）どんな順序で作るのか。	○説明の順序に気をつけて，おもちゃの作り方を説明するという学習の流れを確認する。 ○しかけ絵本や手作りおもちゃについての本を学級に設置するなど，調べる活動を進めるよう示唆する。	【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】進んで時間的な順序や事柄の順序などを考え，学習課題に沿って「しかけ絵本」を作ろうとしている。
				2・3	**考えよう** ２．「しかけ絵本」ができるまでにすることと気をつけることを表にまとめる。 （1）「じゅんじょ」「どうする」「気をつけること」を表す言葉を見つける。	○「一・二・三……」の表記や見出しがゴシック体で強調してあることを手がかりに，説明する文章の構成に気づかせるようにする。 ○P61の写真と対応させて材料を確かめるとともに，P60の写真をもとに，どのようなものができあがるのか，見通しをもたせておく。	
				4・5	（2）「しかけ絵本」を作る順序や作り方を文章から確かめ，表にまとめる。 （3）「用意するざいりょう」を読んで，書いてある内容を読み取り，実際に用意して確かめる。	○P60～64の写真や「一・二……」の番号に気をつけながら，「しかけ絵本」の作り方を確かめる。 ○項目ごとにどのような内容が書かれているのか，整理してワークシートにまとめる。	
				6・7	（4）順序に気をつけて，写真や文章を照応しながら「しかけ絵本」を作る。 ①動物の表情や，食べるものが何か，を想像する。 ②表紙，仕掛け，背表紙を作る。	○どのように作るのか，作り方の大事なところをノートに書き出すとともに，どのようにしてはいけないのか（例えば，しかけの切り込み部分が小さくてはいけないなど）についても考えさせるとよい。 ○実際に，「「しかけ絵本」」を作らせる。児童の実態に応じて，二人で組みになり一つの作品を作るようにし，どのような動物が，どのような状況で，どのような食べ物を食べて，どのような結末を迎えたかを想像させてもよい。	
				8・9	**深めよう** ３.本文は，「しかけ絵本」の作り方をわかりやすく伝えるために，どのような工夫がされているか，考えたことを話し合う。 （1）これまでの説明文との違いについて，気がついたことをノートに書く。 （2）友達どうしで，気がついたことを交流する。	○書かれ方を考えさせると，記号や項目等を分けて書いている表記上のことと，完成した「しかけ絵本」を提示してから材料・作り方……と書かれている，内容のことに分かれるだろう。表記上のことから始め，しだいに内容について扱うとよい。 ○説明する文章をもとに，「しかけ絵本」を作った経験をとおして，「ここが大事」の内容を確認し，自分で説明する文章を作るという次の活動につなげる。	
				10・11	**広げよう** ４．「しかけ絵本」のお話を考え、紹介する。 ＊どのような動物や生き物が登場するのか。 ＊どのような表情をするのか。 ＊仕掛けには，どのような動きがあるのか。 以上，３点を紹介の時に発表する。	○それぞれの項目ごとに，順序立てた説明ができているかどうかを評価する。 ○「食べる前」「食べている時」「食べ終わった時」のように，3ページごとの表情を具体的にイメージさせるとよいだろう。 ○仕掛けの動きについては，教科書の挿絵を始めとする，さまざまなしかけ絵本の例を参考にさせるとよいだろう。	
				12	○学習を振り返る。	○自分の「しかけ絵本」のお話を考えて書くために，付録になっているキットを使用するとよいだろう。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
12	7 （書く 7）	おもちゃのせつめい書を書こう	■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて，説明書を書く。 △言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア	13	○「学習の進め方」を読み，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** ５．おもちゃの作り方や遊び方を思い出し，メモに書く。	○『「しかけ絵本」を作ろう』の学習で学んだことを確かめ合い，それを生かして更に楽しい学習に発展するよう期待をもたせたい。 ○図工や生活科などと関連づけて，取り上げるおもちゃを選んでもよい。国語科では，作ったおもちゃの作り方の手順を説明し，伝えることをおさえる。	◎【知識・技能】共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）
			■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ	14･15	**組み立てよう** ６．説明書の組み立てを考える。	○ペアで意見を交換しながら，説明書に書くことを整理する。おもちゃを作った際に気をつけたこと，遊ぶときのポイントなど，作ったからこそわかる事柄についても書くことを確かめさせたい。 ○メモに書かなかった事柄は，組み立て表に直接書き足してもよい。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ）
			■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ	16・17	**書こう・読み返そう（重点）** ７・８．説明書を書き，読み返す。	○説明する順序を考え，誤りのないように書くことをおさえる。P69「ここが大事」の順序を示す書き方（番号）を全体で確認し，順序立てて書かせる。 ○作り方だけでなく遊び方まで書かせることで，相手意識が生まれやすくなる。読む人を意識しながら，書いている本人も楽しんで書く学習になるとよい。	◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章を読み返す習慣を付けているとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】粘り強く語と語や文と文との続き方に注意し，学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。
			■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったおもちゃから選ぶこともできる。	18・19	**伝え合おう** ９．友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	○１年生を招く生活科などの活動に発展させるためにも，順序を考えて書けたか，作る際の注意点を思い出して書けたかなどをしっかりと確認させる。 ○めあてにそって学習を振り返る。	
1	2	しを読もう せかいじゅうの海が	□音読をとおして言葉のリズムや響きを楽しむとともに，無限に広がる想像の世界を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒知技(1)ク □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	1・2	１．繰り返し音読し，初発の感想を発表する。 ２．１～４連それぞれで，その大きさをイメージする。 ３．５連の大きさをイメージする。 ４．音読を工夫して発表し合う。 ５．「どんなに大きな……だろな。」から想像し，絵に描いたり思ったことを書いたりする。 ６．できあがったものを紹介し，感想を発表し合う。	○各連の「大きな」のイメージを自由に交流させたい。ただの「大きな」ではない。「せかいじゅう」という形容がある。イメージは広がるだろう。 ○終連のイメージは，更に際限がない。音読を楽しみながら，イメージの自由な飛翔を楽しみたい。 ○想像を楽しむために「○○」に入る言葉を出し合い，様子やしたいことをを話し合わせる。(例：虫，鉛筆，ケーキなど) ○上段に絵を描き，下段に考えたフレーズや思ったことを書くような構成にするとよい。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや分かったことを共有し，学習の見通しをもって想像したことを発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	11 （話す聞く3）	六　場面や人物の様子をくわしく読もう	□様子を詳しく読んで，読み方を工夫して音読発表会を開く。				
		かさこじぞう	△身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。　⇒◎知技(1)ク △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。　⇒知技(3)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｃ伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度　我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。	1・2 3・4 5・6 7・8 9～11	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。 **確かめよう** １．『かさこじぞう』の音読発表会を開くために，教材文を読んでいくことを確認する。 （1）主な登場人物を確認する。 （2）主なできごとと，何が変わったのかを確認する。 **考えよう** ２．登場人物の気持ちを考えながら詳しく読む。 （1）じぞうさまは，なぜ，いろいろなものをじいさまとばあさまの家に持っていったのでしょう。 （2）じいさまとばあさまは，どのような人物だと思うか。わかるところを見つけて紹介し合う。 **深めよう** ３．いちばん好きな場面とその訳を紹介する。 **広げよう** ４．音読発表会の準備をする。 ・グループで好きな場面を音読劇にする。どこを，どのように工夫して読むのか相談する。 ５．音読発表会をする。 ・音読発表会を行い，他のグループの発表のよいところをノートに書いて伝え合う。 ○学習を振り返る。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○音読発表会を目あてにして教材文を読んでいくことを確認させる。 ○新出漢字や難語句などを確認させる。 ○登場人物には，じいさま・ばあさま・語り手・村人・じぞうさまが出てくることを確かめる。 ○「たしかめよう」で作成した主なできごとの表でじいさまのしたことを確認したり，その時にじいさまが言っていた言葉を教科書にサイドラインを引いて確認したりすることをとおして，考えさせる。 ○じいさまとばあさまのしたことや言った言葉に着目しながら人柄をおさえる。 ○いちばん好きな場面とその訳を，ノートに書く。 ○好きな場面を選んだ人どうしで集まり，その場面のよさを伝え合い，その場面のよさを改めて考えてもよい。 ○好きな場面として選んだ場面が異なる人とグループを組み，思ったことを交流してもよい。 ○書いたことを友達と紹介し合い，このお話の魅力は，さまざまであり，その魅力を表現する言葉もさまざまであることに気づかせる。 ※知技の語彙の指導とも関連させる。 ○「ここが大事」を読み，音読の工夫についておさえる。 ○登場人物の行動から性格を想像していくことで，声量や間の取り方など，音読の際の根拠となることをおさえるとよい。 例：じいさま……じぞうさまを見つけたときの「おお，お気のどくにな。さぞつめたかろうのう。」とあるから，優しい性格が伝わるようにゆっくり読むとよい。 ○実際に声を出しながら，音読の工夫をさせる。役を取り替えたり，あるいは一人のせりふを複数で読むなど，それぞれの学級の実態に合わせて，さまざまな分担の仕方を工夫する。 ○２年生にとって，どこを工夫していたかを瞬時に聞き取るのは難しいことが多い。そこで，発表者はあらかじめ，どこを工夫して音読するのかを発表させると． ○読み方の工夫をしていた点に注意を向けさせて，それを肯定的に受け止めるような視点から感想文が書けるように促す。また，感想の交流もそうした点が積極的に取り上げられるとよい。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像し，学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	3	むかしのあそび	△日本に古くから伝承されている昔遊び（正月遊び）を知り，実際に遊ぶことをとおしてその魅力を知る。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして，我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。　⇒知技(3)ア △長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付くこと。　⇒◎知技(3)イ	1 2 3	○昔から伝わるお正月の遊びについて知るという見通しをもつ。 １．正月に見られる「羽根つき」「たこ揚げ」「すごろく」「かるた」「こま回し」などについての簡単な由来を知り，実際に体験し，言語文化に親しむ。 ２．地域のかるたについて由来を調べ，実際に体験をとおして言葉の豊かさに気づく。 ３．グループでかるたを作成する。 ○学習を振り返る。	○正月になると目にするものをあげ，これらをなぜ目にするのだろうか，と問うことで課題意識がもてるだろう。 ○前時と同様に，これらの遊びをなぜするのだろうか，と問うことで課題意識をもちながら遊ぶことができるだろう。	◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して，言葉の豊かさに気付き，学習の見通しをもってかるたを楽しもうとしている。
1	4 （話す聞く4）	むかしのあそびをせつめいしよう	◇昔の遊びについて，遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア	1 2・3 4	○昔の遊びから一つ選んで，遊び方を調べて友達に説明するという学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．説明する遊びを決め，遊び方を調べる。 （1）新しく知った昔の遊びから説明する遊びを選ぶ。 （2）遊び方を調べる。 **組み立てよう（重点）** ２．説明のメモを書き，話す練習をする。 （1）同じ遊びを選んだ人どうしで遊び方を確かめながら，説明のためのメモを書く。 （2）メモをもとに，遊び方について順序に気をつけて説明する練習をする。 **話そう・聞こう** ３．遊び方を説明する。 ○学習を振り返る。	○生活科の学習と関連させ，昔の遊びを思い出させる。一つの遊び道具でも多くの遊び方があることに気づかせ，友達がまだ知らない遊び方を知らせたいという意欲を喚起する。 ○地域のかたや家族に遊び方をきいたり，図書館で調べたりする時間を設ける。 ○P99を読み，遊び方を短い言葉で書くメモと，説明の文章を読み比べ，説明するときには順序を表す言葉があるとわかりやすいことを確認する。 ○遊びながら手順をメモするようにする。 ○P99を読み，説明するときには「はじめの言葉」と「おわりの言葉」があるとわかりやすいことを確認する。 ○自分とは違う遊びを選んだ人に説明するようにする。聞き手は，よくわからないことを質問して確かめるようにする。 ○聞いた後で遊ぶ場を設定することにより，順序よく説明することのよさを実感できるようにする。	◎【知識・技能】姿勢や口形，発声や発音に注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え，今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。
2	3	主語とじゅつ語	△文を読んで，主語と述語の対応を考え，正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒◎知技(1)カ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1 2 3	○冒頭の会話文をとおして，文作りにおいて主語と述語の対応が重要だということを知る。 １．省略されている主語を考えることをとおして，主語を明示することの重要性に気づく。 ２．教科書を読みながら，①～③の例文の形を確認していく。 ３．①～③の例文と同じ形の文を作る。 ○学習したことを振り返る。	○主語を明示することで文意が明確になることを意識させる。 ○冒頭の会話文を読んで，何が来たと言っているのか考えさせ，主語を補った文を発表させる。 ○主語が明示されることで文意が明確になることに気づかせる。 ○①～③の例文の形を確認しながら，「だれが」「何が」を表す言葉が主語，「どうする」「どんなだ」「なんだ」を表す言葉が述語であることを理解させる。 ○主語は「だれは（も）」などの形になることもあり，また，過去の事柄を表す際は述語が「どうした」などの形になることを理解させる。 ○文脈による変化にも対応できるように教科書には示されていない例文を示すのもよい。 ○①～③の例文と同じ形の文を，まずは口頭で幾つかずつ発表させる。 ○文の作り方がわかってきたところで，それぞれがノートに書くようにさせる。 ○作成した文を文型ごとに発表させて確認する。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】積極的に文の中における主語と述語との関係に気付き，学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	2	**漢字の広場　⑤** 同じ読み方の漢字	△同じ読み方の漢字を集め，漢字を正しく使う。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。	○同じ読み方の漢字を正しく使うことができるようにするという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み，学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。
					１．P102上段の設問について考える。	○同じ「コウ」という読み方でも，「学校」「公園」「交番」「工場」のように意味や使い方によって，それぞれ適切な漢字を使うということを確認できるとよい。 ○同じ「チョウ」と読む「長」と「鳥」との意味の違いに目を向けるようにする。	
					２．同じ読み方をする漢字を集めて文を作り，友達と読み合い，それぞれの漢字の意味や使い方の違いについて話し合う。	○字音の面で共通する漢字の仲間集めとして，ゲーム感覚で取り組み，同音の漢字に関心が向けられるようにする。 ○ただ単に同音の漢字を並べるのではなく，語句や文などの用例をもとに，それぞれの意味の違いを考えられるようにすることが重要である。	
				2	３．P103の「か」「とう」「し」と読む漢字を集めて語句を作り，発表し合う。	○「か」「とう」「し」と読む漢字をそれぞれ集めるようにする。 ・「か」下，火，花，科，夏，家，歌 ・「とう」刀，冬，当，東，答，頭 ・「し」子，四，糸，止，市，思，紙 ○あてはめてできた言葉について，意味を確認し，それをもとに短文を作り，発表し合い，聞き合い，その言葉の使い方が正しいかどうか確認できるとよい。	
					４．同じ読み方をする漢字を集めて問題を作り，解答し合う。	○巻末『漢字を学ぼう』を参考に，同音の漢字を集めて同様の問題を作るようにし，交流する。	
					○学習したことを振り返る。	○同じ読み方の漢字を正しく使うことができるように，日常の言語生活でも注意していくよう意識づける。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	13 （書く 13）	七　じゅんじょに気をつけて書こう	■したことや身のまわりのできごとの中から書くことを見つけ，思い出して，順序を考えて書く。				
		こんなことができるようになったよ	△長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに，敬体で書かれた文章に慣れること。　⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	1 2 3～5 6～10 11～13	○「学習の進め方」を読んで，学習の見通しをもつ。 **決めよう・集めよう** １．できごとを思い出して，書くことを決める。 （1）これまでのできごとの中から心に強く残っていることを発表し合い，文章に書く題材について考える。 （2）文章に書きたい題材を一つ選び，何を書くのかを詳しく思い出して，メモに書き出す。 **組み立てよう** ２．文章の組み立てを考える。 **書こう・読み返そう（重点）** ３・４．メモの順序にそって，文章を書き，読み返す。 （1）文章を書く。 （2）書いた文章を読み返す。 **伝え合おう（重点）** ５．できあがった文章を読み合い，感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○P104下段の「学習の進め方」に従って，学習の目的やおおまかな流れをつかませる。 ○書く目的を明確にさせ，読んでもらう相手を想定する。 ○特別なできごとでなくても，心を動かされたこと，心に残っていることから題材が広がっていくことをおさえさせる。 ○上巻で学習した『つづけて　みよう　――日記――』をきっかけに，一年間，各自が書いてきた日記があれば，そこから話題を探すようにする。 ○思い出した内容一つ一つをメモに書かせる。 ○したことや見たこと，話したことや聞いたこと，感じたことや考えたことを書き加えさせる。 ○順番を考えたら，メモに番号を振らせる。 ○メモの内容にこだわるのではなく，書くことをどんどん膨らませてもよいことを指示する。 ○「がんばったたこあげ」を読み，直すとよい点を探し直す。訂正するときの記号なども伝えてよい。更に，表現のよい点について話し合わせたい。したことだけではなく，見たこと，話したり聞いたりしたこと，感じたことや考えたことなどが詳しく書かれていることをおさえる。 ○読み返す際のポイントは，P106・107 を参照する。 ○付箋紙に感想を書きこみ，友達の作品に貼るなどの活動をして，感想を残せるとよいだろう。 ○めあてにそって学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章を読み返す習慣を付けているとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりし，学習の見通しをもって文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	3	音や様子をあらわす言葉	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し，文の中で使う。 △長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「 」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ	1	○言葉には，音や様子を表すことができるものがあることを理解し，学習活動に対する見通しをもつ。 １．「音をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 ２．「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。	○教材冒頭の会話文を読み，音や様子を表す言葉を用いて文を書いてみたいという意欲をもたせる。 ○P110下段を読み，まずは「音をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ，板書等を活用して整理していく。 ○P110下段を読み，次に「様子をあらわす言葉」にはどのようなものがあるか具体的にあげさせ，板書等を活用して整理していく。 ○一般的に，擬声（音）語は片仮名で，擬態語は平仮名で表記されることを確認し，おさえておく。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使って いるとともに，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に，言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き，学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。
				2	３．濁音の有無によって，「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 ４．単純形と反復形によって，「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。	○P111の一つめの設問をクラス全体で考え，清音と濁音の違いによって受ける印象に違うものがあることに気づかせる。 ○教科書にあげられた例以外に，どのようなものがあるか各自で考え，全体で共有を図る。 ○P111の二つめの設問をクラス全体で考え，単純形と反復形の違いによって受ける印象の違うものがあることに気づかせる。 ○教科書にあげられた例以外に，どのようなものがあるか各自で考え，全体で共有を図る。	
				3	５．音や様子を表す言葉を使って文を書く。 ○学習したことを振り返る。	○前時までに学習したことの確認を行う。 ○ワークシートや板書などを活用し，学習者に「音や様子をあらわす言葉」を幾つか提示し，それぞれの言葉から受ける印象を大切にして，文を作らせる。 ○教科書の既習ページやワークシートなどから，「音や様子をあらわす言葉」を含まない文章を提示し，どのような言葉をどこに入れることができるか，各自で考えて書きかえさせる。 ○P111下段を読み，「音や様子をあらわす言葉」は，表現をより具体的でわかりやすいものにしてくれるものだということを理解させる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2	2	**漢字の広場　⑥** 組み合わせてできている漢字	△同じ部分をもつ漢字を集め，漢字を正しく使う。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア	1	○学習内容を理解し，学習の見通しをもつ。	○組み合わせてできている漢字について知るという学習課題を確かめ，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み，学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
					１．「明」という漢字の分け方を考える。	○漢字には，幾つかの意味ある部分や既習漢字に分けることができるものがあることが気づくことができるようにする。 ○二つに分けられない漢字には，どんなものがあるかも考えるようにする。 （例）山，木，日，月，人，田，車，上，下など。	
					２．漢字の中には，左右・上下・内外などに分けられるものがあることを確かめ，漢字の組み立て方には一定のきまりがあることを理解する。	○P112では，組み合わせがわかりやすいように，いずれも既習の単体の漢字どうしの組み合わせでできている漢字を示している。 ○漢字の組み立て方と筆順の関係にも目を向けるようにする。 ・左から右へ：「切」など。 ・上から下へ：「答」など。	
					３．「心・田」などの漢字を組み合わせてできる漢字を考え，話し合う。	○「心」「田」をカードに書き，左右，上下，内外などに組み合わせて，考えるようにするとよい。同様に「生」「日」「売」「言」「会」「糸」などもカードにしてやってみる。	
					４．「心・田」などと同じような問題を作り，解答し合う。	○漢字の組み合わせの基本的なパターンを把握できるようにし，今後，学習する際の視点を示し，漢字学習への興味・関心を高めるようにする。	
				2	５．熟語を手がかりに，「言」の部分をもつ漢字を探し，発表する。	○漢字はいろいろな形が複合して構成されているものが多くあり，部分を部分として認識することが，学習の効率化を図り，意欲を増すことにつながる。 ○「会話・会計」と二通りの解答が想定される。また，解答は既習漢字を対象とすることが基本であり，望ましい。しかし，ときに「試算・誤算」「国論・国訓・国設」などのような解答がみられる場合がある。その際は，多くの児童にとって意味がわかるものだけに限定したい。	
					６．「日」「土」「田」など，同じ部分（構成要素）をもつ漢字を集めて問題を作り，発表する。	○同じ部分をもつ漢字とそれを使った言葉を集めて交流することをとおして，語彙の拡充につながるよう留意する。	
	2 （書く2）	**漢字の広場　⑥** 一年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，１年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。　⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。　⇒思判表Ｂ(1)エ ■簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像	3・4	７．絵の中の言葉の読み方を確認する。	○絵に描かれたことと，言葉からわかる様子をたくさん発表できるようにする。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)エ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 （〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き，学習の見通しをもって文を書こうとしている。
					８．教科書の絵と言葉を参考に，絵に描かれている様子から想像できる短文を作り，語と語の続き方に注意して文を書く。	○絵の中には，「森・林」「草・花」など互いに意味のつながりがある言葉があることを確認しておく。 ○語と語との続き方を考えて，まとまりのある一文となるようにする。	
					９．男の子と女の子の目に映ったものを，主語と述語のつながりに気をつけて，２文以上が続くように書き，発表し合う。	○文と文の続き方に注意しながら，続きの文を書く。 （例）赤いやねの家が町にあります。その家の前に青い色の車がとまっています	
					○学習したことを振り返る。	○組み合わせてできている漢字について正しく理解したり，漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし，日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
2～3	16 （書く4）	八　場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう	**□お話の順序に気をつけて読み，あらすじをまとめて紹介する。**				
		アレクサンダとぜんまいねずみ	△言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ □場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：Ｂ友情，信頼　友達と仲よくし，助け合うこと。	1	○単元とびらを読んで，学習の見通しをもつ。全文をを読み，初発の感想を交流したり，語句の確認をしたりする。	○単元とびらを読み，単元の見通しをもたせる。 ○単元とびらの題名，文字，絵を見て，お話を想像させる。 ○単元末には，あらすじをまとめて身近な人に紹介するために，物語を詳しく読むことを確認させる。 ○難語句や特別な表現についての解説や「言葉」の設問は，学習活動の中で適宜取り扱う。 ○新出漢字の確認をする。	◎【知識・技能】言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思考・判断・表現】「書くこと」において，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもち，学習課題に沿って文章にまとめようとしている。
				2・3	**確かめよう** １．あらすじをまとめて身近な人に紹介するために，お話を詳しく読む。 （1）登場人物や主なできごとを確かめる。 ・登場人物の特徴を整理する。 ・場面ごとにアレクサンダのしたことや話したことなどを確かめる。 （2）物語の始めと終わりで，何が変わったかを話し合う。	○挿絵を参考にしながら，登場人物と主なできごとを確認する。 ○ノートに登場人物の特徴をまとめる。 ○挿絵も参考にしながら，話の順序を確かめるために，誰が出てきて，それぞれがどのような行動をし，最後にどのように話が終わったのかを確かめさせる。 ○始めと終わりで登場人物で変わった人はいるか，どのように変わったのか，なぜ変わったのか確認する。	
				4～11	**考えよう** ２．場面ごとの登場人物の気持ちを詳しく読む。 （1）アレクサンダは，いつ自分の考えを変えたのか，話し合う。 （2）アレクサンダは，なぜ考えを変えたのか，話し合う。	○挿絵にふきだしを書いて，場面ごとの登場人物の気持ちもおさえさせたい。 ○「ぼくは……」のあと，なぜ言いかけてやめたのかを考えさせることで，いつ考えを変えたのか確認することもできる。言い始めた時はどういう気持ちだったのか，やめて，そして突然言ったのはなぜか考えさせたい。	
				12・13	**深めよう** ３．アレクサンダが考えを変えたことについて，自分の考えを発表し合う。	○「考えよう」で挿絵にふきだしを書いたものを見返し，アレクサンダが，これまでウイリーとしてきた会話やできごとがアレクサンダの頭の中を駆け巡っただろうことをおさえるとよい。	
				14～16	**広げよう** ４．このお話を誰に紹介するのかを決め，あらすじと自分が興味・関心をもったところをまとめて書き，それをもとに紹介し合う。 ○学習を振り返る。	○「たしかめよう」でまとめた，主なできごとを参考にしながら，あらすじが紹介できるとよい。 ○P131「広げよう」の例文を紹介しながら，どのような構成で書くとよいかおさえる。 ○「広げよう」の例文が，４段落構成で書かれているので，授業でも，今日は１段落めを全員書く，次は２段落め……というように全体の足並みを揃えて，書いていくとよい。途中，友達と交流したり相談したりしながら書かせる。 ○一度書いた文章を友達と読み合い，思ったことを伝えてもらい，書いた文章を推敲し，清書するという流れも考えられる。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の学習内容 学習指導要領との対応（単元目標）	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
3	2 （話す聞く1, 書く1）	国語の学習　これまで　これから	◇■一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，楽しみながら学習できるようにする。 ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。　⇒◎思判表A(1)エ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表B(1)ア ■文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。　⇒思判表B(1)オ ◇紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。　⇒思判表A(2)ア ■身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。　⇒思判表B(2)ア	1	1．一年間の国語の学習で学んできたことや言葉を思い出して書いたり，出し合ったりする。	○上・下巻の教科書，学習のノート，作成物，プリント類（ポートフォリオ）などを合わせて振り返ることができるようにする。挿絵やふきだしを参考にする。単元名や教材名だけでなく，印象的な言葉や活動など思い出す内容は多様でよい。 ○学んできたことを書き出したりして，グループや学級全体で発表し合う。	◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において，話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Aエ） ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において，経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Bア） 【態度】進んで経験したことから書くことを見付け，今までの学習を生かして思い出したことや三年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。
				2	2．1．で出し合ったことをもとしにて，三年生の国語で学びたいことを出し合う。	○三年生になって「できるようなりたいこと」「やってみたいこと」「読んだり書いたりしてみたいこと」など，1．で出たことに対応させていろいろな観点で自由に発表し合う。	